

2026年5月20日
TOPPAN 株式会社**TOPPAN、医薬品 PTP 包装向けに
アルミ箔を使用しないポリプロピレン仕様の脆性フタ材を提供開始**

旭化成より譲受した特許技術を活用し、
医薬品包装におけるモノマテリアル化やリサイクル適性の向上に貢献

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:野口 晴彦、以下 TOPPAN)は、錠剤やカプセルを指で押し出して取り出す PTP(Press Through Package) 包装において、ポリプロピレン(以下 PP)仕様の脆性フタ材(以下 本製品)を、2026年5月20日より提供開始します。PTP 包装のフタ材は主にアルミ箔を使用していましたが、今回の脆性フタ材はアルミ箔を使わずに、優れたプッシュスルー性(薬剤の押し出しやすさ)を実現します。製薬メーカーは、一般に普及している PP 仕様の底材などと組み合わせることで、モノマテリアル化を実現することができます。

TOPPAN は、2025年11月に旭化成株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:工藤 幸四郎、以下 旭化成)より PTP 包装向け脆性フタ材に関する特許技術を譲受しました。このたび、譲受した特許技術と TOPPAN 独自の印刷・加工技術を組み合わせることで、アルミ箔を使用しない脆性フタ材を開発しました。

今後、本製品を製薬メーカー各社に対して提供し、医薬品包装における脱アルミやリサイクル適性の向上、および製品ライフサイクル全体での CO₂ 排出量削減に貢献していきます。

なお、本製品は、2026年5月20日(水)から22日(金)まで開催される「第28回インターフェックスジャパン」(会場:幕張メッセ)の TOPPAN ブース(7ホール 小間番号 35-40)にて展示します。



ポリプロピレン仕様の脆性フタ材

■ 開発の背景

昨今、欧州をはじめとする世界的な環境規制の強化や、企業のサステナビリティへの取り組みの加速により、包装材における脱アルミやモノマテリアル(単一素材)化へのニーズが急速に高まっています。同様に、高度な品質管理が求められる医療・医薬業界においても、従来のアルミ箔を使用した PTP 包装の代替素材に対する期待が高まっています。

しかし、医薬品 PTP 包装のフタ材には、指で押した際に適度な力で破れる「脆性」と、薬剤の安全性の担保を両立することが不可欠であるため、アルミ箔を代替する素材の開発が困難でした。

そこで TOPPAN は、旭化成から譲受した PTP 包装向けの脆性フタ材の特許技術と、独自の印刷・加工技術を組み合わせることで、PP 仕様の脆性フタ材を開発しました。

■ 本製品の特長

・アルミ箔を使用しないことで、モノマテリアル化の実現に貢献

PTP 包装のフタ材にはアルミ箔を使用するのが一般的ですが、TOPPAN は、旭化成から譲受した特許技術と、独自の印刷・加工技術を組み合わせることで、アルミ箔を使用しない PP 仕様の脆性フタ材を開発しました。製薬メーカーは、一般に普及している PP 仕様の底材と組み合わせることで、パッケージ全体のモノマテリアル化を実現できます。これにより、医薬品包装における環境負荷の低減とリサイクル適性の向上に寄与します。

・アルミ箔からの代替可能なプッシュスルー性と、薬剤の安全性の担保を両立

一般的にプラスチックフィルムはアルミ箔に比べて破れにくく、薬剤を押し出しにくい特性があります。本製品は旭化成から譲受した特許技術を活用し、プラスチックでありながらアルミ箔からの代替可能な優れたプッシュスルー性（薬剤の押し出しやすさ）を実現しています。

また、安定した密封性能を発揮し、薬剤の品質保持と安全性を担保します。

・TOPPAN のソリューションと組み合わせ、PTP 包装に関わる領域で一気通貫した支援が可能

TOPPAN が保有する幅広いソリューションと組み合わせることで、PTP 包装に関わる様々な領域で一気通貫した支援が可能です。

例えば、溶剤をほとんど使用しない水性フレキソ印刷（※1）を本製品に活用することで、油性グラビア印刷と比べて CO₂ と VOC（揮発性有機化合物）の排出量を削減できるとともに、微細な印刷も高い精度で実現できます。

また、透明蒸着バリアフィルム「GL BARRIER（※2）」の PP グレードを活用した二次包装用のピロー包装フィルムに加え、複数の PTP 包装シートを結束するバンディングフィルムについても PP 仕様で提供が可能になり、PTP 包装に関わるパッケージ全体のモノマテリアル化に貢献します。

さらに、糖衣錠にも印刷可能な優れた速乾性の錠剤インキ（※3）や、フルカラーバリエーションの錠剤インキ（※4）の提供により、錠剤の識別性向上や誤飲防止を実現します。



二次包装用のピロー包材フィルム

■ 今後の目標

TOPPAN は、本製品を国内外の製薬メーカーに向けて展開し、錠剤インキを含めた PTP 包装関連事業全体で 2028 年度までに 10 億円の売上を目指します。

また、2026 年度中に、GL BARRIER 活用で培った独自のコーティング層と高品質な蒸着層を組み合わせ、よりバリア性能を高めた PTP 包装向けの脆性フタ材を開発予定であり、内容物にあわせ幅広い仕様のラインアップを提供していきます。

■ TOPPAN グループのサステナブルブランド「SMARTS™」について

・サステナブルな未来に、スマートな選択を

「SMARTS™」は、パッケージを起点とした TOPPAN グループのサステナブルブランドです。パッケージで培った技術・ノウハウに、マーケティング・DX・BPO などのリソースを掛け合わせ、バリューチェーンに沿った最適な選択肢を提供します。TOPPAN は、「SMARTS™」が持つ多彩なソリューションで、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会の実現に貢献します。



URL : <https://www.toppan.com/ja/living-industry/packaging/sustainability/>

※1 水性フレキシソ印刷:

水性インキを用いる凸版印刷の一種。有機溶剤をほとんど含まず、CO₂や VOC(揮発性有機化合物)の排出量を削減。環境配慮に向け、日用品やレトルト用途を含む多様な業界・製品に対応したパッケージ展開が可能。

※2 GL BARRIER:

「GL BARRIER」は TOPPAN が開発した世界最高水準のバリア性能を持つ透明蒸着バリアフィルムの総称です。独自のコーティング層と高品質な蒸着層を組み合わせた多層構造で、安定したバリア性能を発揮します。また多くの優れた特性が高い評価を受け、食品から医療・医薬、産業資材に至る幅広い分野において、世界中で採用されています。

※3 TOPPAN は 2026 年 5 月、糖衣錠にも印刷可能な速乾性の錠剤インキを提供開始しました。

https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2026/05/newsrelease260515_1.html

※4 TOPPAN は 2026 年 5 月、医薬品用のフルカラーバリエーション錠剤インキを提供開始しました。

https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2026/05/newsrelease260519_1.html

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上